令和５年度　豊田市総合教育会議

１　日時　令和５年８月２日（水）　１５時～１６時

２　開催形式　対面会議

３　参加者（敬称略　順不同）
豊田市長　太田　稔彦
豊田市教育委員会教育長　山本　浩司
豊田市教育委員会教育長職務代理者　天野　勝美
豊田市教育委員会委員　明木　茂夫
豊田市教育委員会委員　佐伯　英恵
豊田市教育委員会委員　榊原　昌子
豊田市教育委員会委員　吉田　貴子

４　議事録

（１）子ども読書活動の推進について（意見交換）

あいさつ：コロナ第９派。子どもたちがマスク生活が長かったことで、表情や会話をどうしようか悩んでいる子がいると聞いた。今後どのような影響が出てくるか注視しながら、必要に応じて対応していきたいと思っている。

図書館管理課	＜資料に基づき説明＞
明木委員	フリーWi-Fi の導入について、現在も導入されていると思うが、違いは何か。
図書館管理課	従来は、とよたフリーWi-Fi があったが、通信状況が良くなく、時間も３０分であった。また１階の自動販売機にもフリーWi-Fi があるが、時間が１５分と短かった。今回は１回２時間とし、回数制限も無くした。また、館内はどこでも接続しやすいよう改善した。また、小中学校、特別支援学校の児童生徒に貸与されているタブレットは自動接続でき、時間や回数の制限なく終日使用できる。
太田市長	その扱いは中央図書館だけで交流館はやっていないか。
図書館管理課	交流館では実施していない。
山本教育長	不読率の高さに驚いた。この調査の後に小６と中３を対象に行ったアンケートがあるが、「読書が好き」と回答した小学生は７５％、中学生は７０％程度であった。一方で、学校図書館や地域の図書館に行きますか、という問いに対し、「年に数回行く」または「ほとんど行かない」と回答した小学生が６０％、中学生では８５％との結果であった。不読

	率増加の要因について、学校を訪問した際に聞いてみたところ、新型コロナウィルス対策として、学校図書館を開館していない、または開館していても人数制限をしていたなど施設的なことや地域の保護者による読み聞かせ、調べ学習の際に図書を自由に活用するなど図書に触れる機会の減少が挙げられた。今後、子どもがまた本を読むようになるにはどうしたらいいか、図書館の存在について考えていかないといけないと感じた。
榊原委員	子どもたちが主体的に読書活動を行うために、調べ学習や出前講座、またビブリオスピーチなどいろいろやっているが、不読率が悪化していることが残念である。入門期の子どもたちは、本を読んだり、図鑑を見て様々なことを知るのがとても好きだと思う。このころの子どもたちに読書習慣が定着すれば、不読率はよくなると思う。小学１年生の孫がいるが、本を読むのが好きである。学校ではどうかと聞いたところ、教室の隣に図書館があり、こういう本が読みたい、と図書館の先生に相談すると、先生が本を探してくれるからとてもうれしいと言っていた。本が身近にあり、探す手段を身に着けていれば、子どもたちは自分の問いを解決するために本を手にする機会が増えるのではないか。また、４年生の孫はまずタブレットで調べてから本をみる。中央図書館にフリーWi-Fiがあるのはとてもいいことである。身近にあること、本がすぐ手に取れる環境があることがとても大事だと思う。そういう意味では、交流館にもよく行くので、交流館の図書コーナーの充実、電子図書の充実に力を入れてほしいと思う。私が学生のとき、読解のテストで出てきた問題文が気になり、題名を覚えておき、後で図書館で本を探して読む、と言うことをやっていた。いい場面が切り抜いてあることや、自分の年齢に合った本を読むことができ、とても楽しかったことを覚えている。教員になってから、テストの際は出典をしっかりと表記し、子どもたちに紹介すると、反応も良く、自分の年齢に合った本を見つけることができてうれしい、という子どももいた。反対に、中高生は年齢に合った本を探すのは難しいのかもしれない。児童図書に比べるとまだ少ないため、中学生高校生向けの本を充実させてほしい。どのような機会に本好きだった自分を思い出させるか、学校や図書館関係者の方には、今まで以上に工夫してほしい。
吉田委員	自分の子どもには絵本のある子育てをしたいと考えてきたが、タブレットの普及により、物語を音声で聞いたり、調べたいことがある時は、ユーチューブの音声入力で調べている。SNS に触る時間が増えることで、今まで読書をしていた時間が減っており、その結果本を読む時間が減っているのでは、と子どもを見ながら思っている。子どもが触れる媒

	体として、映像が増えている。読解力は文字を読んで想像する力が大事ということに、親が気付いていれば、図書館に連れて行って絵本を読ませることができる。しかし親も SNS 時代になっているので、絵本を読む楽しさやどのような力が養われるのか、など親子で考えられる工夫があると良いのではないか。 今後中央図書館と学校図書館とのネットワーク化が検討されるとのことだが、今図書館で本の情報を検索できるが、学校の図書館でも検索できるようになるということか。
図書館管理課	データと物流も含めてネットワーク化できるようにしていきたいと考えている。図書館が持っている図書という財産を有効活用したいが、学校が１００校以上あるため、実施の可能性も含め検討していきたい。
天野委員	ソフト面もハード面も改善され、他市と比較しても豊田市は一生懸命やっていると思うが、図書館だけ頑張っても限界がある。子どもと触れる学校の先生、家庭における親がどれだけ本を読んでいるか。身近にいる人生の先輩が、本のおもしろさを伝えることが大事。図書館と両方でアプローチをしないと限界がある。以前、学校の先生が本を読んでいるかという調査を行った際、あまり読んでいないという結果だった。私の周りでも、テレビやスマホは見るが、本を読むことを面白いと思っている人が少ない。やはり、先生や親が本を読む面白さを知ることが大事。一冊２冊読んだだけでは面白さはわからない。本をある程度読み込むといろんな作家が書いた内容がつながってくる。つながってくると読書が面白くなる。これは大人も子どもも同じであると思う。 また、読むことは知識、教養、文化をインプットすること。インプットも大事だが時にはアウトプットすることが大事。いろんな人と意見を言う場があると読書の面白さが増える。友人と毎月１回読書会を行っているが、アウトプットがあると読書の面白さが広がる。図書館の取組を生かしていくならば、教育委員全体として、また保護者へ向けてのアプローチをどうするか、と言うところまで広げて考えていく必要があると思う。
山本教育長	中央図書館と交流館や学校図書館の連携の話があったが、とても大事だと思う。DX の時代なので、データベース化、システム化して共有してできるといいと思う。
図書館管理課	現在は実施していないが、中央図書館で借りた本を学校で返せるなどの仕組みができれば、もっと利用が増えると考えている。自宅の近くに交流館がなく、本が借りられない子もいる。学校図書館が活用できれば、本を借りられる子どもも増えると考えている。

山本教育長	現在は図書館司書が運搬していると聞いたがそれでは量や幅に限界があると思っている。また、外国人や障がいのある児童生徒で日本語を勉強したい子どもに対する読書支援が増えていくと良いと思うが。
図書館管理課	障がい者については、従来より力を入れており、図書館の展示を作ってもらったり、デイジー図書、という読み上げる機械を貸し出したりしている。外国人に向けた取組はなかなか進んでいないが、外国語の図書は沢山持っており、保見地区の学校に貸し出し等を行っている。
明木委員	図書館の OPAC（オンライン蔵書目録）を活用して学校でも検索が可能になるのではないか。ビジュアル的にもかなりわかりやすく、子どもでもすぐ活用でき、検索の方法の学習にもなる。既存の OPAC に学校からアクセスできるようにすればと思うがどうか。
図書館管理課	貸与されたタブレットから中央図書館の HP にアクセスできる。今年度フリーWi-Fi が整備されたので、中央図書館において、タブレット、本の両方を使った調べ学習の講座を実施した。その中で OPAC の使い方も指導したところ、保護者の方に好評だった。今後学校の先生や保護者に伝える機会があれば伝えていきたい。
佐伯委員	今後の取組の児童コーナーの機能強化に期待している。孫が 2 歳になり本に興味を持っている。外出先で気になるのは、子どもと話す声。子どもの歓声を気にする人がいるから、なかなか子どもを連れていけないと思っている人が多いと思う。大規模改修はどのような内容になるのか。
図書館管理課	児童コーナーは現在 4 階にあるが、 6 階にある閲覧席との入替を予定している。これにより、一般の方が立ち入るフロアとは別のフロアとなり、大きな声を出しても保護者が気にする必要がなくなる。また、6 階に移ることで面積も 1.5 倍となるため、書架と書架の間の通路の幅をベビーカーがすれ違えるように広げるなど、ゆったりと本を見られる作りにする予定である。また、従来は入口が 2 階と 5 階にしかなく、館内のエスカレーターで移動する必要があったが、 6 階にも入り口を設けることでアクセスしやすくなると考えている。
佐伯委員	ほかの自治体でも図書館の大規模改修が効果を上げていると聞く。幼少から本に触れることは効果があると思うのでよろしくお願いしたい。
明木委員	図書館の役割として、地元の貴重な資料や、個人で買えない価値がある本をきちんと所蔵することがある。本市ではないが、ベストセラーをたくさん配架して利用者数を上げる、ということが過去にあったと聞いている。それはちょっと違うと思う。数字を上げることが大事なのではないと思う。 不読率については驚いたが、コロナも要因の一つであると思う。今後様々な工夫をする中で、日本の絵本の外国語版は利用価値がいろいろあると

	思っている。たとえば『もちもちの木』など、誰もが読んだ本の英語版があると興味を持ちやすい。外国語の翻訳、世代を超えた共通のものにも目を向けるといいのでは。例えば日本図書館協会が出している「図書館とゲーム」という本があり、とても示唆に富んでいる。ボードゲーム、テーブルＲＰＧ、電子ゲームなどを図書館の資料として扱い、様々なイベントに利用する事例が載っている。すぐに実施するのは難しいだろうが今後検討する価値はあるとおもう。本市の貴重書庫には江戸時代の武道・武具の本が多い。たとえばゲームのイベントとして、「刀剣乱舞」を図書館で扱えば、ゲームへの関心から歴史や古典への興味を広げられるのではないか。工夫次第で漫画やアニメ、ゲームを活かして、本市が所蔵する特徴ある資料を活用して、読書の習慣につなげていくこともできるのでは。調べ学習もよいが、様々なジャンルから読書に結び付けられる工夫もあると良いのではないか。
天野委員	本を読むきっかけづくりのアイデア。はらだまさこ氏著の短編小説。主人公が住んでいるのは豊田市の大林地区、舞台は美術館であった。豊田市にゆかりのある内容や著者を紹介すると、読書のきっかけになるし、また WELOVE とよたにもつながる。 かみさかふゆこ氏の著書にもあったと思う。
太田市長	電子図書を始めて、利用者はどのくらいになっているか。
図書館管理課	資料にもあるが、令和４年度の１０月からスタートし、年度末までの半年間の実績だが、１４６８コンテンツあり、１４９４１回借りられていることから、１冊１０回程度借りられている。
太田市長	紙の新刊本の発刊は増えているか
図書館管理課	従来は発刊が多い時と少ない時と波があったように思うが、出版自体少し減っているような印象を受けている。
太田市長	資料中、読書活動によって読解力や思考力・創造力などを養うとあるが、あえて言えば、読解力等を養うのは読書活動だけなのか。デジタル化など環境が変わっている中で、読書活動だけが旧来の定義でこれからもやっていけるのかというところを疑問に思っている。これは不読率の読み方にも影響すると思う。コロナの影響としつつ、令和３年度から令和４年度にかけて不読率は悪化している。しかし、令和３年度のほうがコロナウィルスによる影響は大きかったはず。これは私たちがこれまで読書と考えていた本に代わる何かを子供たちが手に入れたと思うのが自然な気がする。
明木委員	市長の発言はその通りだと思う。自分が学生の頃は、学校の先生から当たり前のようにドフトエフスキーのような名作を全員読んでおけといわ

	れたが、今は必ずしもそうではない。今はライトノベルでもなんでもいいという指導になっていると思う。現在は紙媒体以外に、ネット上でいろいろ読むことなども、読解力を増す方向性に働く可能性はあると思う。ただし、YouTube ばかりを漫然と見るばかりでは、映像作品でも長い物についてこられなくなる。早送りやスキップをしたくなるとういう声も大学生から聞かれる。映像作品から内容が読み取れる子は、やはり紙の本も読んでいる。 昔ながらの読書という考え方は薄れてきており、広い意味で文字や文章に触れることを読書に含めるような考え方に変わってきていると思う。やはり紙の本を読む習慣が必要なのでは。映像ばかりでは育たないものがあると思う。文字と触れる、文章と触れる体験という方向に進んでいってほしい。
太田市長	その辺りを、みんなが納得する理論武装にしないと進めていくのは難しいかもしれない。かつてワープロが出てきた時代に、こればっかり使っていたら字が書けなくなるといわれ、当時は本当にそうだと思っていたが、いまさらそれ以前のやり方には戻れなくなっている。時代の変化を客観的に、冷静に押さえていく必要があるのでは。生成 AI に頼めばドフトエフスキーも３００字にまとめてくれる。子どもたちがいやおうなしに生成ＡＩを使っていく時代にどうしていくか。これからの時代の変化を追いながら、進んでいければと思う。 ここに集まっている人は読書好きの人か。読書好きの人が集まって議論をしても微妙なところがある。自分が読んだ本について話すことで内面をさらけ出すことになるから。最近読んだ本でおすすめのものはあるか。
天野委員	「マザーツリー」という女性の学者が書いた本がある。森の生態を人生をかけて調査している。親木が次の世代を作っていく仕組みが森林にはある。植物には知性がある。ということを解明している本。図書館にも入れていただいた。分厚い本を読むには忍耐がいる。若い子はなかなか読めない。今はタブレットがすぐ答えを出してくれるが、忍耐力で読解していく、思考力を高めていく、と言うようなことを行うことで、大局的に物事を見たり、世の中を俯瞰して見て判断する能力が身につく。ボタンを押してすぐ出てくる情報では、思考力を高めたり、大きな見方は学べない。今の子どもたちに一番必要なのはそういう忍耐力。そういうことも大事だと教えたい。読み切ることは読書の喜びを得ることになる。
太田市長	そういうことができない人はどうしようもないのか。読書に代わるものはないのか。たとえばスポーツとか。読書以外でも読解力・創造力・思

	考力・表現力を養う方法が読書以外にもあるのではということを並行して認めていかないと行き場をなくす子どもが出てくる。今日の会議は読書の会議だからこれでいいが。
明木委員	読み飛ばしもいいよ、面白いところだけ読んでもいいよ、という指導や助言も必要なのではないか。映画やクラシックもそのような楽しみ方がある。固く考えなくても、面白いところだけ拾い読みしてもよい。気楽な読書もあるという助言があれば、気が楽になるのではと思う。
榊原委員	孫が動画を見ているがつまらなくなる時がある。自分がイメージしているものと動画が違うことがあるという。本だとイメージを自分で描けるから、本の方が楽しいと気が付いたようだ。本で遊ぶというのは、やはり文字からイメージすることなのではないかと思う。
太田市長	日経新聞で一面びっしり書いているが、冒頭に要点が３つほど書いてある。全部読むのは大変なので、要点から気になるものがあればそれだけ読むことができる。誰もが全ての記事を読むことができるわけではないので、読んでほしいものはできるだけ目に留まるような工夫をする。読ませる工夫もあっても面白いのではないか。 一見とりとめのない１時間だったが、それぞれの委員の発言は経験に裏打ちされた発言だったと思う。図書館も今日の発言を受けて、これからの取組みに活かしてほしい。
図書館管理課	我々が気が付かなかった点を示唆していただいたので、しっかり検討したい。